



つながる☆ひろがる
幼保小連携だより
1年生との交流

令和5年(2023年)12月
札幌市立白楊幼稚園
年長 りす組 No3

1年生からの招待状

白楊幼稚園と地域の保育園の年長さんが、白楊小学校の1年生から生活科の学習『おもちゃランド』に招待され、交流しました。招待状に書かれていた「めいろ」「けんだま」などを楽しみに、そして1年生になった昨年のりす組さんに会えることで期待が高まっていました。



学校楽しかった！

当日、小学校の体育館には、枝の“パチンコ、まつぼっくりのツリーやけん玉、どんぐりを使った“迷路”や“マラカス”など、秋の自然物を使ったお店がたくさん。初めに皆でお店の紹介を聞いたので、「あのお店に行きたい！」と見通しをもち、それぞれが行きたいお店を巡りました。初めは互いに緊張した様子でしたが、1年生が優しく遊び方を教えてくれたり、いろいろな遊びをやらせてもらったりして、次第に表情が和らいでいきました。大好きだった昨年のりす組さんの姿を見つけたことも、うれしそうでした！小学校への期待や憧れが大きくなったことでしょう！



お店がいっぱい！みんな興味津々でいろいろな遊びを体験しました。



最後に感想を発表！

交流に来ていた、ちあふるきたの年長さんを見つけて、「この間白楊幼稚園で遊んだよね！」と思い出していました。「ちあふるではハンターを年中さんにも教えてあげたよ。」「幼稚園でも十字架鬼を年中さんとやっているよ！」と伝え合いました。

自分たちもやりたい！

社会生活
との関わり

言葉による
伝え合い

交流後園に戻り、皆で『おもちゃランド』を振り返りました。「迷路を箱と木の棒で作っていたよ。」「マツボックリのツリー、幼稚園でも作れそう！」など、楽しかったことを伝えるとともに自分たちでも作れそう、材料は〇〇が必要、××も使っていたよ、という話がたくさん出ました。歳の近い1年生の活動に参加したこと、自分たちも触れ親しんできたドングリやマツボックリなどの自然物を使っていること、自分たちも日々遊んでいる内容に近かったことなどから、「やってみたい！」という気持ちが湧いていました。



1年生はこうやっていたよ。



豊かな感性
と表現

自然との関わり
・生命尊重



協同性

数量・図形、文字等
への関心・感覚

看板がいるよ！

「やりたい！」をすぐに実行！その日に早速、マツボックリの飾りやけん玉を作る子たちがありました。また、翌週からも「今日はおもちゃランドの〇〇をつくるぞ！」という目的をもって登園する姿も。ドングリの迷路やマツボックリのアクセサリーなど、じっくり作ることを楽しみました。そして、けん玉を作った子が、「お店するわ！」とけん玉屋さんを始めました。一緒にけん玉を作った友達と、「いくらにする？うさぎ組とひよこ組は安くしよう。」と相談したり、「オレ看板書くわ。先生、この字どうやって書くの？」と確かめながら文字を書いたりしてお店を開店しました。けん玉屋の隣にはマツボックリのアクセサリー屋、ドングリのマラカス屋も開店し、りす組だけでなく、うさぎ組、ひよこ組の子どもたちや先生たちもたくさん来てくれて、意気揚々と説明したり、張り切ったりない品物を作ったりしていました。

1年生のおもちゃランドで楽しかったことを、園で自分たちなりに再現する中で、たくさんの力の育ちが見られました。『経験したことを生かす』『やってもらう→自分がやりたい』『身近な自然に触れて遊びに取り入れる』『友達に伝える』『友達と相談して力を合わせる』

『必要感から文字を書く』『もっとこんなアクセサリーにしたいとイメージを膨らませる』など。幼稚園の遊びの中で学んでいることが、1年生の学習につながっています。そのことがりす組さんと1年生の姿から見えた交流でした。



道徳性・規範
意識の芽生え

年少さんは何回やってもいいよ。

「1年生にお礼をしたらいんじゃない？」とプレゼントを作った子がいました。そのことがきっかけとなり、皆で1年生にお手紙を書きました。

